

# 魔王の策略

アウリウリウリ

～蹂躪されし聖女と勇者の魂～

数千年繰り返されてきた  
勇者と魔王の戦いに  
遂に終符が打たれる……

フルカラー  
本編38p





魔王!

トドメだ!

おのれ...  
人間どもめ...

オオオオオオ



やったか!?

アハハハハハ!



聖なる力よ...  
魔の者の力から  
我らを守る  
堅牢なる要塞となせ...

いけない!  
リヒト  
下がって!

なんだ!?!  
くっ...!

だがこのままでは  
終わらぬぞ!

オオオオオオ

オオオオオオ

オオオオオオ



セイクリッド  
フォートレス!!

我もろとも  
滅びるがいい!!

オオオオオオ  
オオオオオオ  
オオオオオオ  
オオオオオオ  
オオオオオオ  
オオオオオオ

オオオオ

オオオオ



と言う事は…

もう気配を  
感じません

魔王は？

やりましたね…

やったんだな…  
俺たち…



はあ…  
はあ…  
くっ…

アリシア  
大丈夫か？

ええ…  
大丈夫です…  
魔力は底を  
尽きました…

おっ



アリシア：  
ありがとう…

君のお陰で  
助かった…

リヒトもね

さあ帰ろう…  
歩けるかい？

すみません…  
しばらくは…

じゃあ僕が  
背負って行くよ

ほら

ありがとう  
ございます

すまない

本当なら  
抱きかかえて  
行きたいんだが

まだ手は空けて  
おきたくてね



ム…

ズ…





勇者様の  
ご帰還だー！！

わあぁ

やっと  
帰ってこれたな…

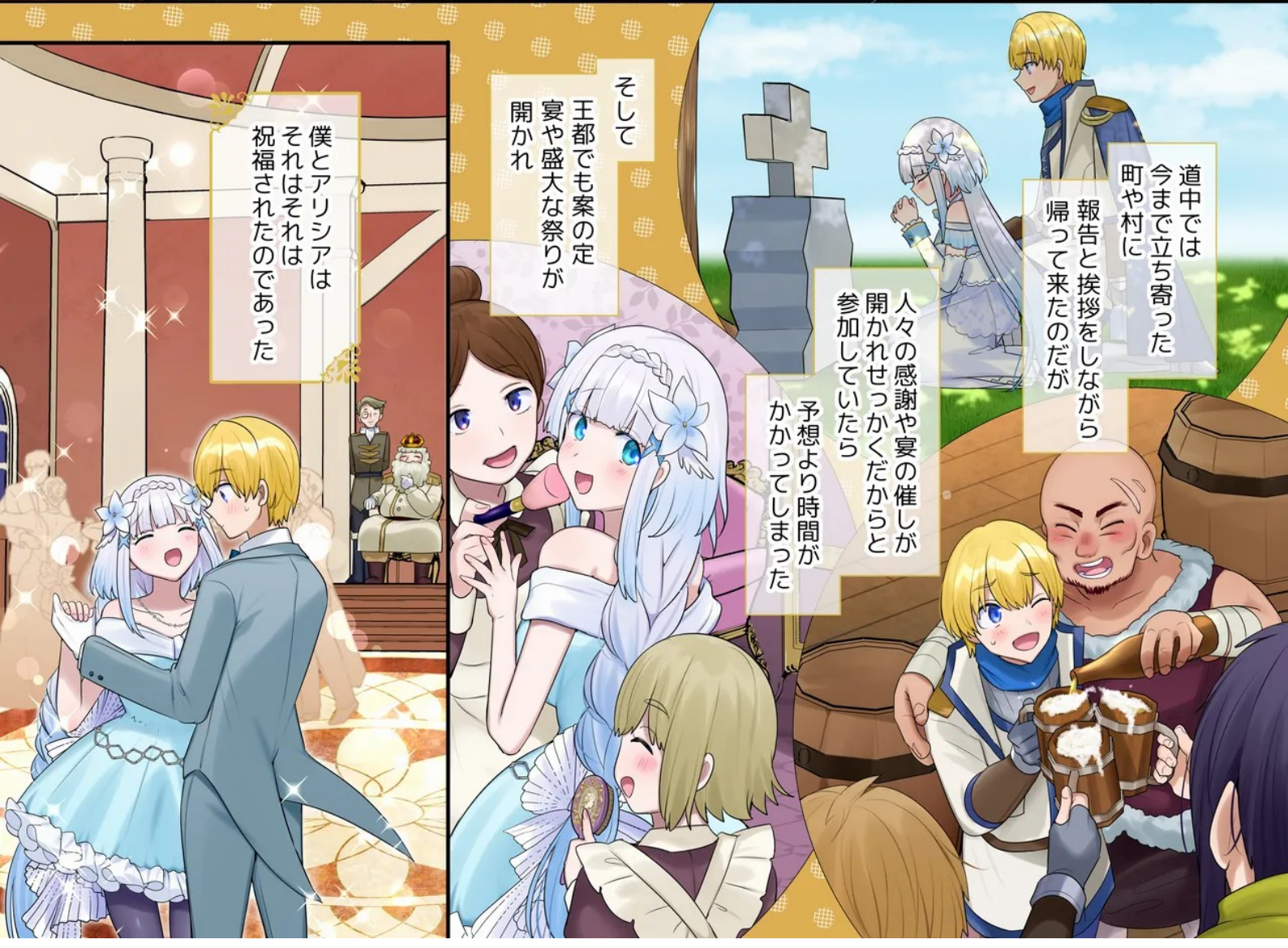
ええ…

僕たちは  
数力月をかけて

魔王城から  
王都に帰還した

聖女様  
こちら向いて…

おめでとう…



道中では  
今まで立ち寄った  
町や村に  
報告と挨拶をしながら  
帰って来たのだが

人々の感謝や宴の催しが  
開かれせつ々だからと  
参加していたら

予想より時間が  
かかってしまった

そして  
王都でも案の定  
宴や盛大な祭りが  
開かれ

僕とアリシアは  
それはそれは  
祝福されたのであった



そして…

わぁ…!!

王様ったら  
こんな豪華な  
お部屋を私達に…

あぁ…

ベッドも  
ふかふかだ…



本当に平和に  
なったのね…

あぁ…

本当に  
やり遂げたんだ  
僕たち…

私ね…

全部終わったら  
言おうと思ってた  
事があるんだ…

と…

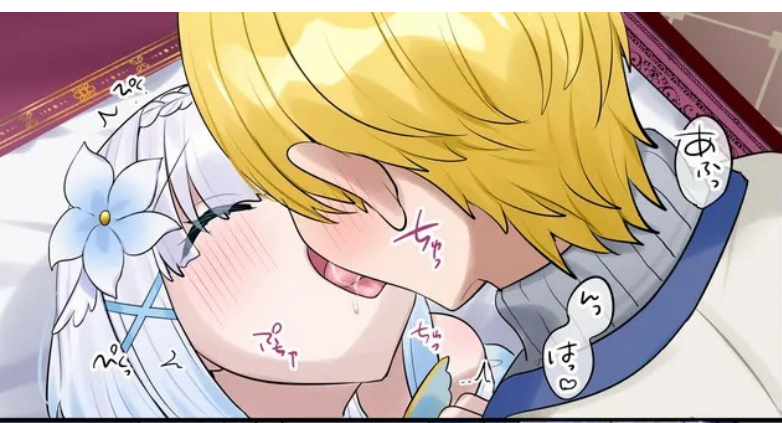


私…  
リヒトが好き…

旅に出る前から

ずっと…  
ずっと…  
ずっと…









あああああー!

うっ!

おてるっ!  
リゾートのが

私の膣内に!

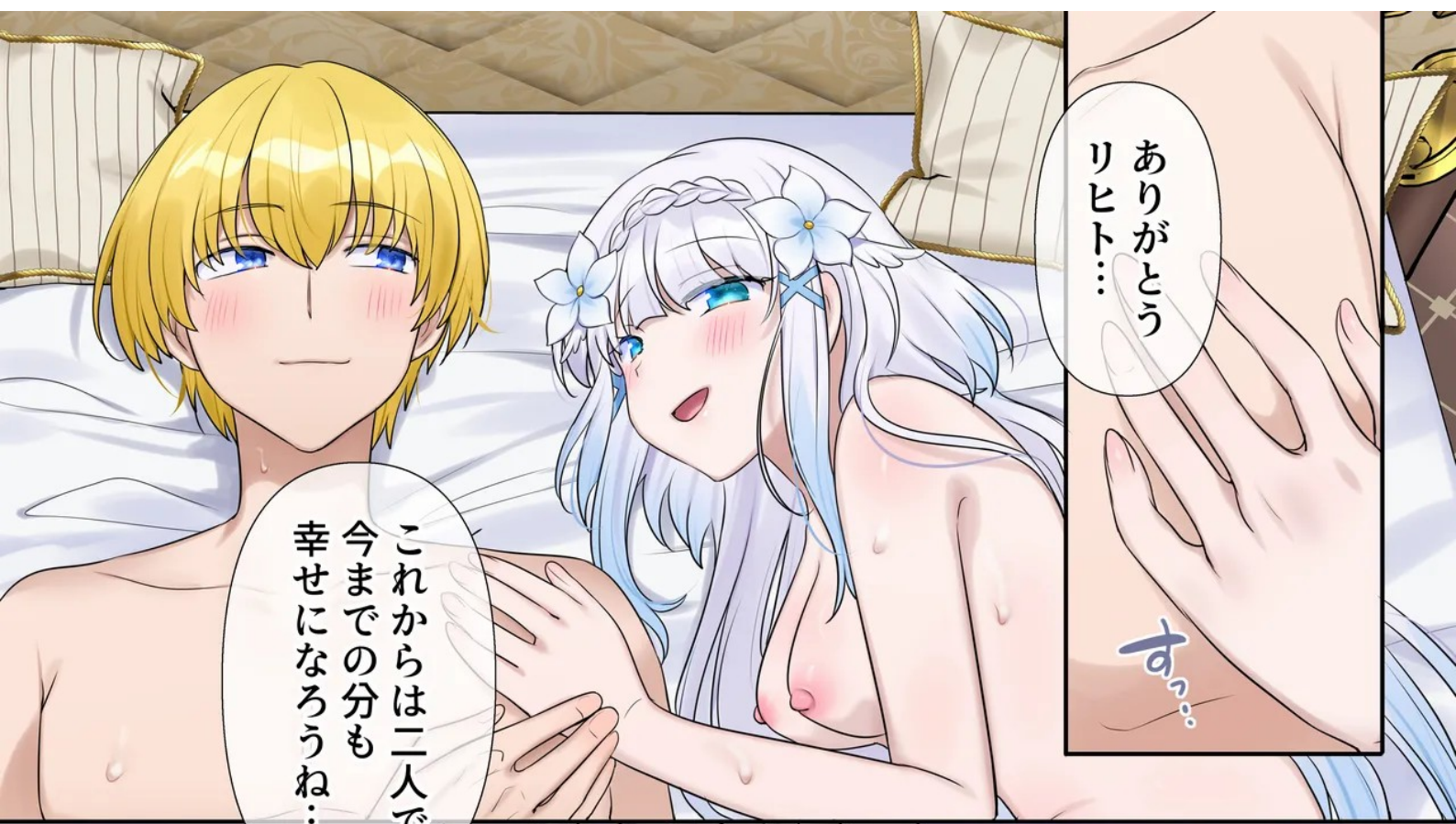
♡♡♡♡♡



は...は...

は...は...

は...は...



これからは二人で  
今までの分も  
幸せになろうね...

ありがとうございます  
リヒト...

す...



スリ...

あぁ...  
幸せ...



やっとうとうと...  
一緒に...

く...

ガッ...  
ガッ...



ああっ!?

…っ!

なに…  
私の中に…  
何か…

アリシア!?

これ…って…  
まさ…か…魔…

啊啊啊啊啊啊!?

あ…  
あ…



クク…  
ようやくだ…



ようやく  
隙を見せたな聖女よ…



アリ…  
シア…?



まさか…  
お前は…!



…再会出来て  
嬉しく思うぞ

忌々しき勇者よ

そうだ！  
我は魔王ノワール！

復讐の為に  
死の淵から舞い戻ったぞ！

我もろとも  
滅びるがいい

あの時我は  
貴様に剣を突き刺され  
致命傷を負った

ぐっ…！  
そんな…  
あの時間違い無く  
消滅したはずじゃ…

なんて力だ…！

だが最後に放った技は  
自爆では無かったのだよ



初めは勇者よ

貴様に潜むはず  
だったのだが

聖女めの  
神聖魔法により防がれ  
消滅間際まで追い込まれたが

魔法が消えた瞬間に  
苦し紛れで  
聖女に潜りこんだのよ

ワッ  
イ

大人しく機会を  
窺っていたのだ

そして聖女めを  
隙が出来るまで



だが僅かな隙ではいかん  
何せ我は残滓でしか無かった

こやつが強靱な魂では  
容易にはねのけられて  
いたであろうよ

そして今夜  
ようやく隙を  
見せたのだ…

ワッ



旅を終え  
好きな異性の前で



自らの心も体も  
全てを解放したのだ!



人の女体を  
繰る事になったのは  
些か遺憾ではあるがな...

魔王たる我が



そんな...



勇者…いや

リヒトが  
好きと言う  
気持ちか…!



だがこやつのは  
如何せん濃くてな  
魂を喰ってなお  
溢れてくるのだ…



やめ…ろ…!!  
アリシアを返せ!



今の我は  
貴様とまぐわいたいと  
すら思っているぞ



やめろと  
言いつつも

貴様のブツは  
喋っている間に  
元気を取り戻した  
ようだぞ？



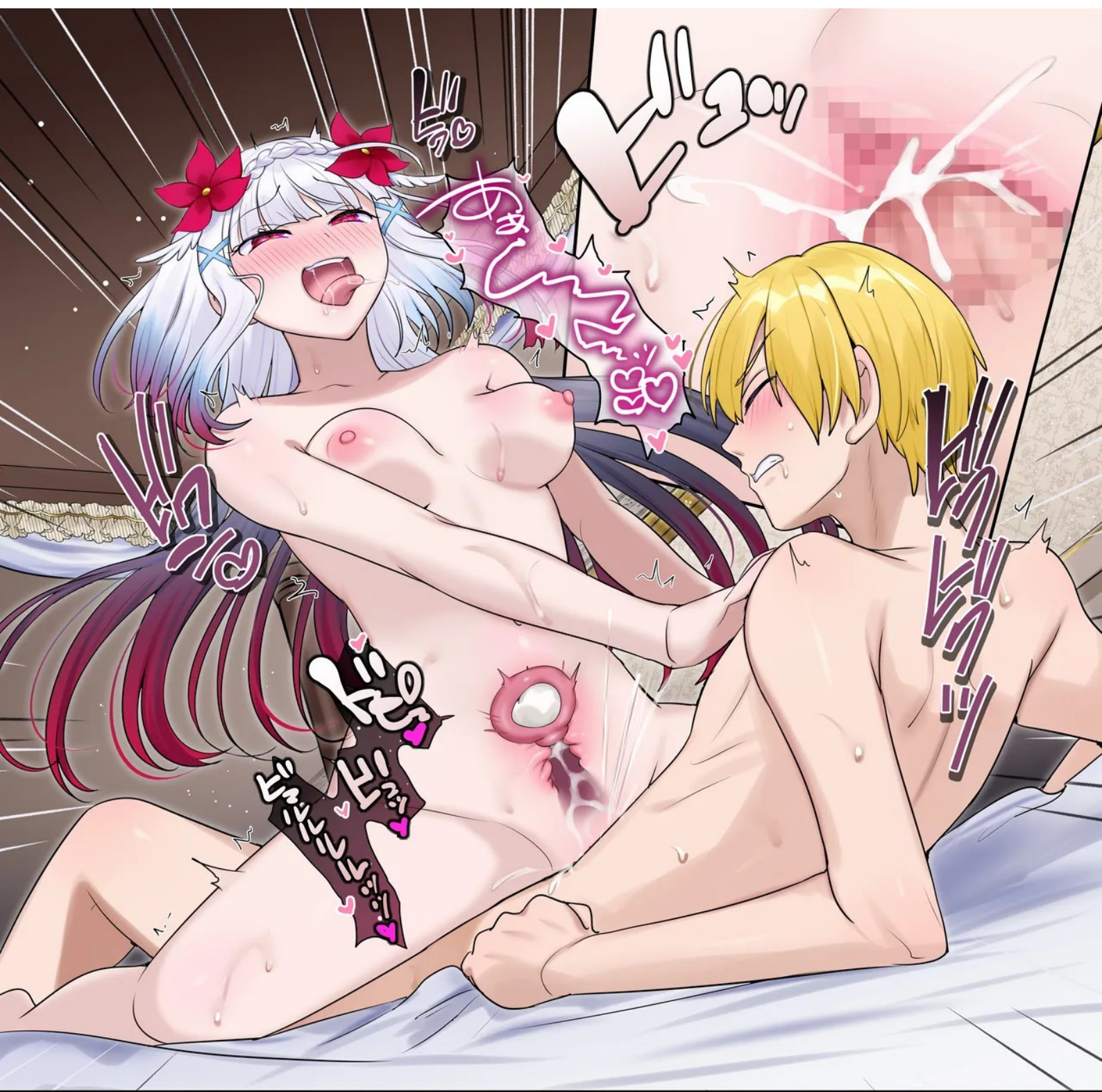
さあ  
さっきの続きを  
しようではないか…

さあ

ハッ







聖女めの魂に  
少し飲まれてしまったか…

我とした事が

はあ…  
はあ…

だがこれで  
計画は進む…

フフ…  
リビトよ…喜べ

私と  
我と  
貴様の子だ…

は…?

これで  
終わりではないぞ

ちゅっ♡

す♡

ほのめ

ほのめ

うん

グッ

うん







今しがた誕生した  
私と貴様の子の魂を  
口づけで移したのよ

なん…で…  
そんな事…  
うっ…!

いやなに…  
貴様にはその体から  
出て行って貰おうと  
思ってたな

ふむ…  
どうやら  
娘のようだぞリヒト

ぞ…



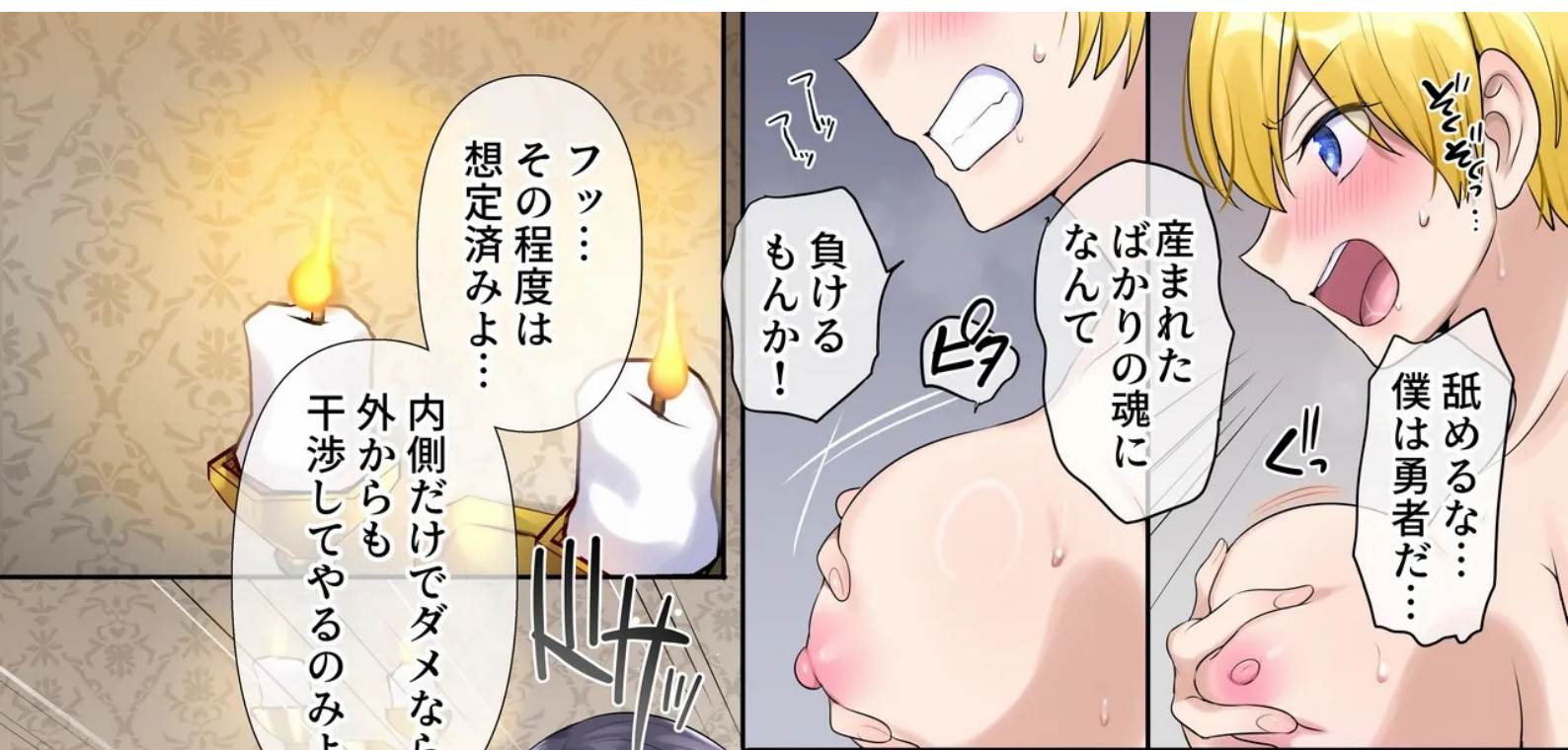
娘が貴様の体を  
自分に馴染むように  
作り変えているのだ

いくら貴様が  
勇者と言えど

魔王と聖女と  
勇者の血を継いだ  
娘の魂には抗えまい



これって…  
おっぱい…?  
なんで…



舐めるな…  
僕は勇者だ…

産まれたばかりの魂に  
なんて

負けるもんか!

フツ…  
その程度は  
想定済みよ…

内側だけでダメなら  
外からも  
干渉してやるのみよ

さあ貴様の魂を  
私の膣内に出すがよい



フツ

ヒツ  
ヒツ  
ヒツ

フツ

いつまで  
我慢出来るかな?

意識が…

なに…  
これ…

フツ







覚醒したか

我が娘レヴィよ

ほち...

わたし...  
むすめ...  
レヴィ...



だが計画は  
最終段階まで来た

ズン...  
ズン...

さあ  
出てこ...

リビトよ...

メリメリ...



おかあさん...?

フツ...

我が母とは  
因果な物よ





.....

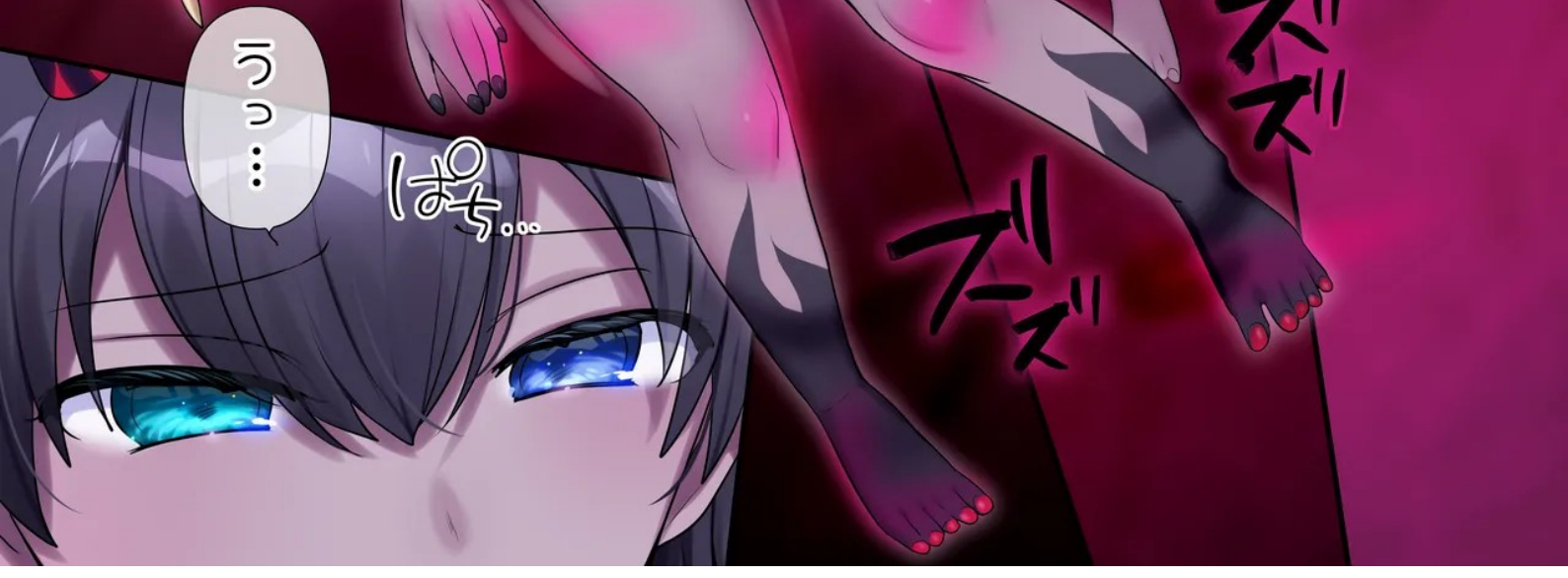


.....

.....

.....

.....





「」...は...

勇者リヒトよ  
目を覚ましたか

アリシア...

いや!魔王!

...っ!?

なんだこの声!?

それにこの体...  
小さくなってる!?

小さくなっている  
だけではないぞ

その姿見を  
見てみるがいい

F/ky



おっ  
おっ

なんだ…  
これ…



おっ  
おっ



どうだ  
自分の娘の体  
に入る気分は？

くっ…  
どうして  
こんな事を！



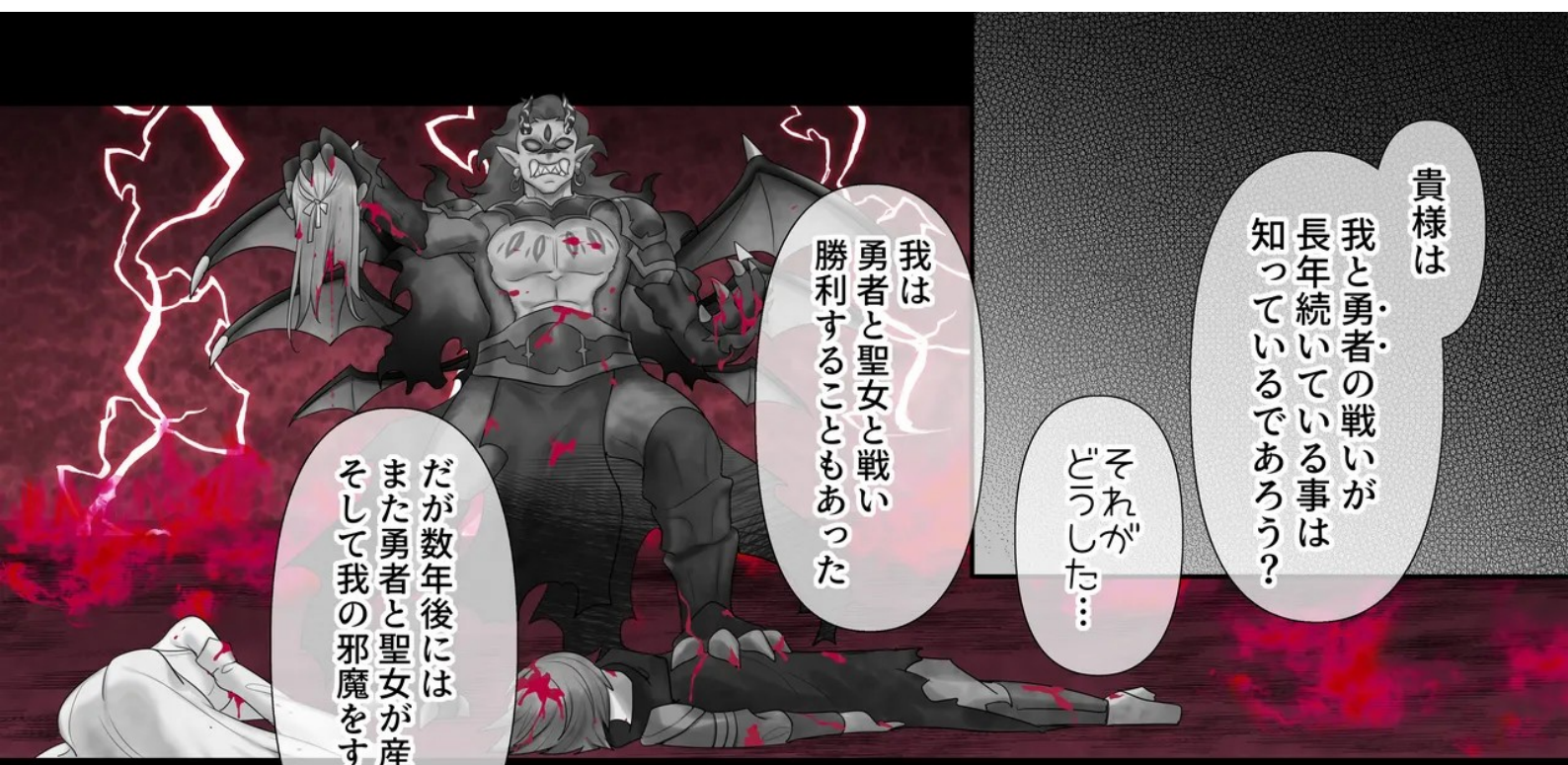
おっ



ならば  
教えてやろう

僕たちに  
復讐したいのなら  
何故殺さずにこんな  
回りくどい事をする！





貴様は

我と勇者の戦いが  
長年続いている事は  
知っているであろう？

それが  
どうした…

我は  
勇者と聖女と戦い  
勝利することもあった

だが数年後には  
また勇者と聖女が生まれ  
そして我の邪魔をする



その繰り返しに  
折に  
我は気づいたのだ

魂の色が  
同じであると…



そう  
貴様らは  
記憶は違えども  
同じ魂を宿して  
産まれてくる

ならばその魂を  
現世に止め

閉じ込めて置くことが  
出来れば…

ミフ！



そうだ！  
もう勇者と聖女は  
産まれて来ない！

私と貴様が  
生きている限りな！

だっちらう…

僕がお前を…  
アリシアを…殺す！  
そして僕自身も…！



あああああ！

やれるものなら  
やってみるがいい…



それは貴様が既に  
魔族だからだ

聖女と勇者の血が  
入っている体とは言え  
貴様は既に魔族なのだ

聖剣など振るえるはずも  
ないであろう？

そんな…

な…  
なんで…



おかあさん  
これで良い？

ひょい

な



レヴィよ…  
手本を見せてやれ

ほい

~~~~~



聖剣が…

アワアワアワ…

わかった

ズマ…



さあレヴィよ…  
最後にお前の魔力を  
流し込むのだ



聖剣は  
勇者リヒトの物  
それは今も変わらぬ

これが…  
狙いか…



これで  
勇者も聖女も  
聖剣も

全て我の物…

わあ…  
凄い凄い!

これがパパの体と  
聖剣なんだね!

とっても力が湧いてきて  
何でも出来ちゃいそう!



くっく…  
くっく…  
くっく…



パパありがとう!

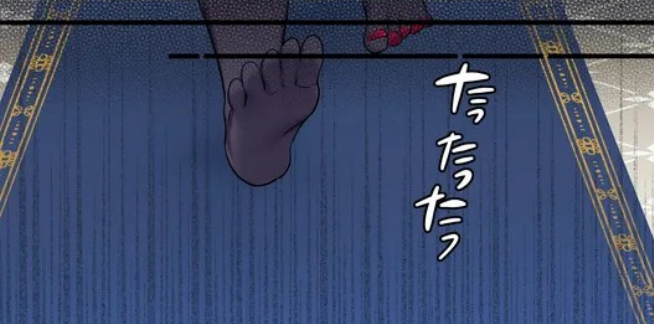
私  
この体と剣  
大事にするね!



フツ…  
酷い事を  
言うものだな…



僕はお前の  
パパじゃない!



タラ  
タラ  
タラ





運よく逃げ延びた  
民の証言によれば

聖女に似た魔族と

禍々しい剣を持った  
魔族の少女に  
よるものだと言う噂が  
真しやかに囁かれていた

そして…

哀れだな  
リヒトよ

貴様はその  
勇者と聖女と  
魔王の血を継いだ体で

あ……  
う……

強い魔族を産むための  
苗床として  
生き続けるのだ

クク…フフフ…

ハハハハハハ!

END